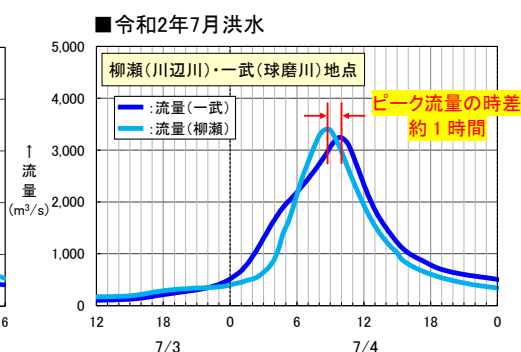
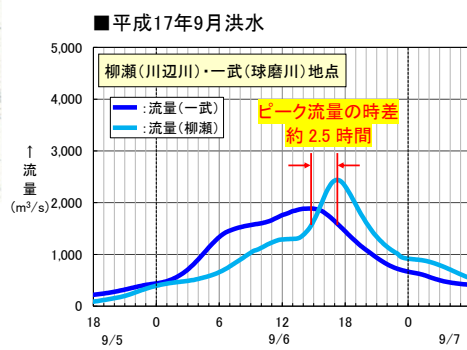
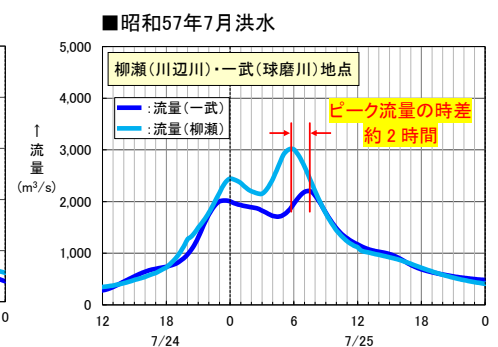
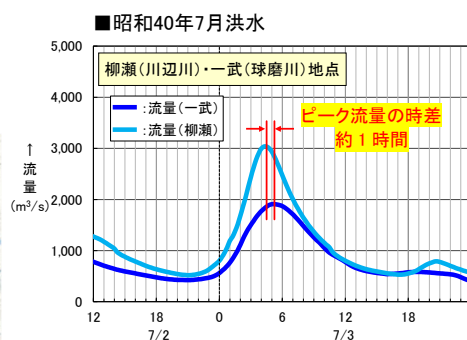
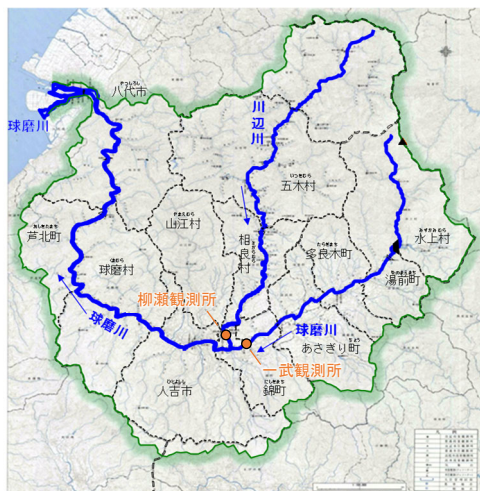


Q2. 令和2年7月豪雨も含め、球磨川水系における過去の洪水の特徴はなんでしょうか。また、なぜ川辺川にダムが必要なのでしょう。

- 人吉から上流を見た場合、球磨川と川辺川の河川の長さや流域面積が同程度になっています。
- 令和2年7月豪雨では、球磨川と川辺川の洪水のピークがほぼ同時刻となり、ピーク流量もほぼ同じような規模となっており、川辺川合流点より下流では、氾濫により甚大な被害が発生しました。
- 令和2年7月豪雨以外でも、これまで被害をもたらした昭和40年7月洪水、昭和57年7月洪水、平成17年9月洪水では、球磨川と川辺川の洪水のピークがほぼ同時刻となっており、ピーク流量はいずれの洪水においても川辺川が大きくなっています。

<参考>過去の洪水における川辺川と球磨川のピーク流量のタイミング



○ このため、川辺川の洪水を一時的に貯留し、洪水のピーク流量を減らすことが、下流の氾濫を防ぐために有効となり、令和2年7月洪水では、流水型ダムが完成することにより、球磨川中流部から人吉市街部にわたりピーク水位をおおむね1m～3m低下させる効果があります。

○ なお、川辺川の流水型ダムの集水面積は 470km² であり、川辺川の流域面積 533km² の約9割を占めます。

<参考>球磨川水系流域図

